

事務事業名 いきいき体験教室実施事業

政策:05 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり

施策:04 学校家庭地域の連携

部名:教育部

課名:生涯学習課

基本事業:04 地域教育力の向上

計画年度	年度 ~ 年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市内の小学生		【地球・日本体験教室】8月5日（金）実施 国立科学博物館（上野）にて、ワークシートを利用し、地球の成り立ち、日本の成り立ちを学ぶ。参加者：30名 【自然体験教室】11月8日（土）実施 千葉県立中央博物館にて、「森の調査隊」に参加し、様々な植物・自然に触れ、自然を学ぶ。参加者：12名 【生活体験教室】12月20日（日）実施 グループで料理をすることにより、協力すること、役割・責任を持つことを学ぶ。また、自分が作ったものを食べることの楽しさを知る。参加者：30名				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		子どもたちの豊かな心、考える力を育て、体験する意味を自分で考え、いろいろな体験を通して達成することの喜びを知る				
4 活動指標・成果指標・事業費の推移						
区分	指標名称	単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	教室開催回数	回	3	3	4	-
活動指標						
成果指標	参加した児童数（参加者名簿より）	人	79	72	120	-
成果指標						
事業費		千円	20	20	150	
		うち一般財源	千円	20	20	150
5 目的妥当性						
法定受託事業である（根拠法令） 妥当である 妥当性が低い		学校教育とは違う領域で、日常体験できないような学習機会を提供している。				
6 上位の基本事業への貢献度						
貢献度大きい（理由） 貢献度ふつう（理由） 貢献度小さい（理由） 基礎的事務事業		家庭では、行われたい体験（科学体験教室・古代体験教室等）を実施している。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討						
対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる 対象や意図の見直しはできない その他		子ども達の考える力を育てることが意図であるため。				
8 有効性（成果状況）						
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない		事業参加児童数は、70人前後を推移しているが、事業によっては、定員を超える応募があり、成果は上がっている。参加者が集まりにくい事業内容の見直し、事業実施回数、1事業毎の定員数等、成果向上の余地はあるが、予算、人員確保等の点で難しくはある。				
9 有効性（成果向上余地）						
成果向上余地・大 成果向上余地・中 成果向上余地・小・無し						
10 事業の再編成						
類似の事業があり、再編成できる 類似の事業はあるが、再編成できない 類似の事業はない		児童のみを対象とした類似事業は無い。				
11 効率性（コスト削減の方法）						
ある ない		市バスを利用、減免制度のある施設を利用するなどし、最低限の費用で実施している。 原材料費については、受益者負担している。				